

平成30年度

荒尾市水道事業会計
決算の状況

荒尾市企業局

1. 業務の状況

項目	単位	平成30年度	平成29年度	増減	伸率(%)	備考
行政区域内人口	人	52,525	53,098	△ 573	△ 1.1	
年度末給水人口	人	50,298	50,801	△ 503	△ 1.0	
普及率	%	95.8	95.7	0.1		
年間総配水量	m ³	5,667,618	5,742,488	△ 74,870	△ 1.3	
年間有収水量	m ³	5,022,772	5,051,674	△ 28,902	△ 0.6	
有収水量率	%	88.6	88.0	0.6		
1日平均配水量	m ³	15,528	15,733	△ 205	△ 1.3	
1日最大配水量	m ³	17,015	17,215	△ 200	△ 1.2	

有収水量の推移

年度	水量(m ³)	増減率(%)
20	5,133,180	△ 1.9
21	5,135,576	0.0
22	5,074,266	△ 1.2
23	5,018,308	△ 1.1
24	4,931,515	△ 1.7
25	4,894,701	△ 0.7
26	5,078,848	3.8
27	5,105,510	0.5
28	5,101,638	△ 0.1
29	5,051,674	△ 1.0
30	5,022,772	△ 0.6

平成26年度から開始した水道一元化事業により、有収水量は増加となったが、近年は人口減少の流れと節水型機器の普及、家庭や企業において節水意識が高まったこと等により減少傾向である。

2. 経営の状況

(収益的収入)

(単位:千円)

	平成30年度		平成29年度		対前年度比		水道ビジョン (H30)
	決算額	構成比(%)	決算額	構成比(%)	増減	伸率(%)	
1. 営業収益	746,848	71.5	746,245	72.3	603	0.1	739,290
①給水収益	744,474	71.3	744,204	72.1	270	0.0	736,867
②その他の営業収益	2,374	0.2	2,041	0.2	333	16.3	2,423
2. 営業外収益	297,668	28.5	285,746	27.7	11,922	4.2	283,529
①受取利息	26	0.0	56	0.0	△ 30	△ 53.6	65
②他会計補助金	49,534	4.7	51,113	5.0	△ 1,579	△ 3.1	57,100
③長期前受金戻入	207,710	19.9	203,565	19.7	4,145	2.0	200,000
④雑収益	32,898	3.2	31,012	3.0	1,886	6.1	26,364
⑤補助金	7,500	0.7	0	0.0	7,500	皆増	
3. 特別利益	0	0.0	21	0.0	△ 21	皆減	
①過年度損益修正益	0	0.0	21	0.0	△ 21	皆減	
計	1,044,516	100.0	1,032,012	100.0	12,504	1.2	1,022,819

(収益的支出)

(単位:千円)

	平成30年度		平成29年度		対前年度比		水道ビジョン (H30)
	決算額	構成比(%)	決算額	構成比(%)	増減	伸率(%)	
1. 営業費用	863,438	92.1	841,456	91.6	21,982	2.6	909,325
①職員給与費	49,478	5.3	43,977	4.8	5,501	12.5	42,385
給料	24,785	2.7	23,957	2.6	828	3.5	
手当等	17,183	1.8	12,823	1.4	4,360	34.0	
法定福利費	7,510	0.8	7,197	0.8	313	4.3	
②経費	427,140	45.6	419,972	45.6	7,168	1.7	484,521
委託料(包括:修繕費)	51,411	5.5	45,780	5.0	5,631	12.3	67,534
委託料(包括:動力費)	52,214	5.6	48,940	5.3	3,274	6.7	53,000
委託料(包括:その他)	172,130	18.3	171,232	18.6	898	0.5	205,963
委託料(包括以外)	96,265	10.3	92,179	10.0	4,086	4.4	81,439
その他	55,120	5.9	61,841	6.7	△ 6,721	△ 10.9	76,585
③減価償却費	379,087	40.4	370,126	40.4	8,961	2.4	379,168
④資産減耗費	7,733	0.8	7,381	0.8	352	4.8	3,251
2. 営業外費用	73,811	7.9	76,916	8.4	△ 3,105	△ 4.0	78,821
①支払利息	73,181	7.8	76,841	8.4	△ 3,660	△ 4.8	78,800
②雑支出	630	0.1	75	0.0	555	740.0	21
計	937,249	100.0	918,372	100.0	18,877	2.1	988,146

(損益収支)

(単位:千円)

	30年度	29年度	増減	水道ビジョン(H30)
当年度純利益	107,267	113,640	△ 6,373	34,673
前年度繰越利益剰余金	40,755	77,115	△ 36,360	
その他未処分利益剰余金変動額	51,199	118,137	△ 66,938	
当年度未処分利益剰余金	199,221	308,892	△ 109,671	
内部留保資金	672,749	616,681	56,068	531,021

収益的収入支出の説明

(収入)

(単位:千円)

科目	金額	説明			
給水収益	744,474	一般用	744,230	浴場用	244
その他の営業収益	2,374	消火栓維持管理負担金	765	手数料	185
		督促手数料	1,424		
受取利息	26	預金利息	26		
他会計補助金	49,534	簡水利子繰入金	312	閉山炭鉱利子繰入金	48,696
		児童手当繰入金	526		
長期前受金戻入	207,710	国庫補助金戻入	73,487	他会計補助金戻入	104,047
		工事負担金戻入	12,736	他会計負担金戻入	6,506
		受贈財産評価額戻入	10,934		
雑収益	32,898	下水道料金事務委託料	31,711	行政財産使用料	64
				その他	1,123
補助金	7,500	国庫補助金	7,500		

(支出)

(単位:千円)

科目	金額	説明			
職員給与費	49,478	給料・報酬	24,785	管理職手当	516
		扶養手当	996	期末勤勉手当	6,521
		通勤手当	226	宿日直手当	7
		住居手当	608	時間外勤務手当	242
		引当金繰入額	4,042	児童手当	610
		法定福利費	7,510	退職給付費	3,415
		委託料	372,020	維持管理業務委託	79,415
		水質検査委託	2,833	その他	14,017
その他	55,120	修繕費	2,018	受水費	398
		賃借料	1,901	啓発費	857
		通信運搬費	2,847	材料費	120
		手数料	2,178	負担金	529
		水源負担金	41,244	その他	3,028
減価償却費	379,087	建物減価償却費	9,124	構築物減価償却費	242,632
		機械及び装置減価償却費	82,192	工具及び備品減価償却費	1,542
		無形固定資産減価償却費	43,597		
資産消耗費	7,733	固定資産除却費	7,532	棚卸資産減耗費	201
支払利息	73,181	財政省	45,583	民間等資金	441
		地方公共団体金融機構	27,157		

収益的収支については、収益10億4451万6千円に対し、費用9億3724万9千円となり、収支差引1億726万7千円の黒字決算となった。

3. 建設改良事業等の収支状況(税込)

(資本的収入)

(単位:千円)

	平成30年度		平成29年度		対前年度比		水道ビジョン (H30)
	決算額	構成比(%)	決算額	構成比(%)	増減	伸率(%)	
1. 企業債	172,300	50.1	185,000	45.7	△ 12,700	△ 6.9	179,100
2. 工事負担金	11,536	3.4	9,005	2.2	2,531	28.1	10,501
3. 他会計負担金	4,021	1.2	3,847	1.0	174	4.5	4,050
4. 補助金	155,867	45.3	206,893	51.1	△ 51,026	△ 24.7	151,993
計	343,724	100.0	404,745	100.0	△ 61,021	△ 15.1	345,644

(資本的支出)

(単位:千円)

	平成30年度		平成29年度		対前年度比		水道ビジョン (H30)	
	決算額	構成比(%)	決算額	構成比(%)	増減	伸率(%)		
1.建設改良費	347,772	59.3	487,457	68.0	△ 139,685	△ 28.7	373,795	
①配水設備拡張費	128,239	21.9	304,947	42.6	△ 176,708	△ 57.9		
委託料(包括:工事費)	91,046	15.5	252,293	35.2	△ 161,247	△ 63.9		
委託料(包括:その他)	35,219	6.0	50,630	7.1	△ 15,411	△ 30.4		
その他	1,974	0.4	2,024	0.3	△ 50	△ 2.5		
②配水設備改良費	174,355	29.7	170,838	23.8	3,517	2.1		
委託料(包括:工事費)	153,678	26.2	125,197	17.5	28,481	22.7		
委託料(包括:その他)	19,008	3.2	19,008	2.6	0	0.0		
施設整備費	1,669	0.3	26,633	3.7	△ 24,964	△ 93.7		
③営業設備費	45,178	7.7	11,672	1.6	33,506	287.1		
委託料(包括:工事費)	14,321	2.4	9,898	1.4	4,423	44.7		
その他	30,857	5.3	1,774	0.2	29,083	1,639.4		
2. 企業債償還金	239,101	40.7	228,986	32.0	10,115	4.4		239,449
計	586,873	100.0	716,443	100.0	△ 129,570	△ 18.1		613,244

(資本的収支)

(単位:千円)

	30年度	29年度	増減	水道ビジョン(H30)
資本的収支不足額	243,149	311,698	△ 68,549	267,600
補填財源	過年度分	0	0	0
	当年度分	243,149	311,698	△ 68,549

資本的収入支出の説明

(収入)

(単位:千円)

科目	金額	説明		
企業債	172,300	財務省	26,600	地方公共団体金融機構 145,700
工事負担金	11,536	工事負担金	1,000	下水道工事に伴う負担金 10,536
他会計負担金	4,021	消火栓設置負担金	4,021	
補助金	155,867	国庫補助金	13,333	他会計補助金 142,534

(支出)

科目	金額	説明		
①配水設備拡張費 その他	1,974	賃借料	162	委託料(包括以外) 1,812
③営業設備費 その他	30,857	備品購入費	983	システム更新委託 29,874
企業債償還金	239,101	財務省	127,892	民間等資金 21,663
		地方公共団体金融機構	89,546	

4. 財政の状態

(資産の部)

(単位:千円)

		平成30年度		平成29年度		対前年度比	
		決算額	構成比(%)	決算額	構成比(%)	増減	比率(%)
資産合計		11,183,378	100.0	11,140,567	100.0	42,811	0.4
固定資産	有形固定資産	8,457,007	75.6	8,466,415	76.0	△ 9,408	△ 0.1
	無形固定資産	1,757,367	15.7	1,800,964	16.2	△ 43,597	△ 2.4
	計	10,214,374	91.3	10,267,379	92.2	△ 53,005	△ 0.5
流動資産	現金預金	908,019	8.1	815,629	7.3	92,390	11.3
	未収金	56,906	0.5	53,272	0.5	3,634	6.8
	貯蔵品	4,079	0.1	4,287	0.0	△ 208	△ 4.9
	計	969,004	8.7	873,188	7.8	95,816	11.0

(負債資本の部)

(単位:千円)

		平成30年度		平成29年度		対前年度比	
		決算額	構成比(%)	決算額	構成比(%)	増減	比率(%)
負債資本合計		11,183,378	100.0	11,140,567	100.0	42,811	0.4
負債合計		7,297,025	65.3	7,361,482	66.1	△ 64,457	△ 0.9
固定負債	企業債	3,790,941	33.9	3,866,357	34.7	△ 75,416	△ 2.0
	退職給付引当金	31,025	0.3	28,802	0.3	2,223	7.7
	修繕引当金	25,146	0.2	25,146	0.2	0	0.0
	計	3,847,112	34.4	3,920,305	35.2	△ 73,193	△ 1.9
流動負債	企業債	247,716	2.2	239,101	2.2	8,615	3.6
	未払金	233,061	2.1	194,824	1.7	38,237	19.6
	引当金	5,950	0.1	6,708	0.1	△ 758	△ 11.3
	その他流動負債	1,073	0.0	1,048	0.0	25	2.4
	計	487,800	4.4	441,681	4.0	46,119	10.4
繰延収益	長期前受金	5,419,203	48.5	5,251,614	47.1	167,589	3.2
	長期前受金累計額	△ 2,457,090	△ 22.0	△ 2,252,118	△ 20.2	△ 204,972	9.1
	計	2,962,113	26.5	2,999,496	26.9	△ 37,383	△ 1.2
資本合計		3,886,353	34.7	3,779,085	33.9	107,268	2.8
資本金	資本金	3,091,615	27.6	2,973,478	26.7	118,137	4.0
	計	3,091,615	27.6	2,973,478	26.7	118,137	4.0
剰余金	資本剰余金	70,790	0.6	70,789	0.6	1	0.0
	利益剰余金	723,948	6.5	734,818	6.6	△ 10,870	△ 1.5
	計	794,738	7.1	805,607	7.2	△ 10,869	△ 1.3

キャッシュ・フロー

(単位:円)

区 分	平成30年度	平成29年度	対前年度増減額
1 業務活動によるキャッシュ・フロー			
当年度純利益	107,266,981	113,639,583	△ 6,372,602
減価償却費	379,086,774	370,125,667	8,961,107
固定資産除却費	7,531,625	7,170,085	361,540
減損損失	0	0	0
貸倒引当金の増減額	116,197	△ 36,604	152,801
引当金の増減額	1,465,294	△ 356,000	1,821,294
長期前受金戻入額	△ 207,710,368	△ 203,565,003	△ 4,145,365
受取利息及び受取配当金	△ 25,556	△ 55,813	30,257
支払利息	73,181,046	76,840,932	△ 3,659,886
固定資産売却損益	0	0	0
過年度損益修正損益(△は増加)	0	△ 20,545	20,545
未収金の増減額(△は増加)	△ 428,697	△ 35,186,382	34,757,685
受取手形の増減額(△は増加)	0	0	0
たな卸資産の増減額(△は増加)	207,730	438,475	△ 230,745
その他流動資産の増減額(△は増加)	0	0	0
特定収入仮払消費税の調整額	△ 12,624,072	△ 16,053,063	3,428,991
未払金の増減額(△は減少)	34,697,331	△ 28,989,264	63,686,595
前受金の増減額(△は減少)	0	0	0
その他流動負債の増減額(△は増加)	25,760	△ 5,210	30,970
小計	382,790,045	283,946,858	98,843,187
利息及び配当金の受取額	25,556	55,813	△ 30,257
利息の支払額	△ 73,181,046	△ 76,840,932	3,659,886
業務活動によるキャッシュ・フロー	309,634,555	207,161,739	102,472,816
2 投資活動によるキャッシュ・フロー			
有形固定資産の取得による支出	△ 318,471,983	△ 563,823,431	245,351,448
有形固定資産の売却による収入	0	0	0
無形固定資産の取得による支出	0	0	0
無形固定資産の売却による収入	0	0	0
有価証券の取得による支出	0	0	0
有価証券の売却による収入	0	0	0
貸付けによる支出	0	0	0
貸付金の回収による収入	0	2,100,000	△ 2,100,000
国庫補助金等による収入	13,333,000	107,379,000	△ 94,046,000
一般会計又は他の特別会計からの繰入金による収入	138,375,886	131,343,521	7,032,365
寄附金による収入	0	0	0
負担金による収入	16,318,892	20,883,160	△ 4,564,268
出資による支出	0	0	0
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 150,444,205	△ 302,117,750	151,673,545
3 財務活動によるキャッシュ・フロー			
一時借入れによる収入	0	0	0
一時借入金の償還による支出	0	0	0
建設改良費等の財源に充てるための企業債による収入	172,300,000	185,000,000	△ 12,700,000
建設改良費等の財源に充てるための企業債の償還による支出	△ 239,100,846	△ 228,986,046	△ 10,114,800
その他の企業債による収入	0	0	0
その他の企業債の償還による支出	0	0	0
建設改良費等の財源に充てるための他会計借入金による収入	0	0	0
建設改良費等の財源に充てるための他会計借入金の償還による支出	0	0	0
その他の他会計借入金による収入	0	0	0
その他の他会計借入金の償還による支出	0	0	0
他会計からの出資による収入	0	0	0
リース債務の返済による支出	0	0	0
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 66,800,846	△ 43,986,046	△ 22,814,800
資金の増加額(又は減少額)	92,389,504	△ 138,942,057	231,331,561
資金期首残高	815,629,249	954,571,306	△ 138,942,057
資金期末残高	908,018,753	815,629,249	92,389,504

主な経営指標

区 分	単位	30年度	29年度	28年度	類似団体
1.事業の概要					
普及率	%	95.8	95.7	95.6	77.9
1人1日平均有収水量	ℓ	274	272	272	303
有形固定資産減価償却率	%	42.4	41.1	40.3	45.3
2.施設の効率性					
有収率	%	88.6	88.0	88.6	87.8
負荷率	%	91.3	91.4	91.4	84.9
施設利用率	%	69.3	70.2	70.4	58.1
最大稼働率	%	76.0	76.9	77.1	68.5
配水管使用効率	m ³ /m	12.9	13.1	13.1	21.5
固定資産使用効率	m ³ /万円	6.7	6.8	6.9	7.0
3.経営の効率性					
総収支比率	%	111.4	112.4	112.6	114.5
経常収支比率	%	111.4	112.4	112.6	114.6
繰入金比率(収益的収入)	%	4.8	5.0	5.2	1.1
給水収益に占める割合					
うち企業債利息	%	9.8	10.3	10.7	6.4
うち減価償却費	%	50.9	49.7	48.3	45.4
供給単価	円	148.22	147.32	147.62	136.42
給水原価	円	145.25	141.5	141.5	127.88
料金回収率	%	102.0	104.1	104.3	106.7
4.財務の状況					
流動比率	%	198.6	197.7	178.3	442.3
当座(酸性試験)比率	%	197.8	196.7	177.1	419.7
自己資本構成比率	%	61.0	60.9	59.4	75.0
固定資産対長期資本比率	%	95.5	96.0	95.8	88.9

水道事業の経営指標(平成30年度決算)

○本市の経営状況と類型区分(平成30年度末現在)

給水人口	主な水源	経常収支比率	累積欠損金比率	不良債務比率
50,298	地下水・河川水	111.4	—	—

・給水人口区分 5万人以上10万人未満

・類団平均は、29年度決算数値により総務省が算出した指標を用いた。

1 事業の概要

(1) 普及率(%)

荒尾市		類団平均
30年度	29年度	29年度
95.8	95.7	77.9

《算式》 普及率＝給水人口÷行政区域内人口

《説明》 市域内での水道の使用割合(普及)をみるもの。

《分析結果》 荒尾市の水道普及率は、類似団体平均を上回っており、ほとんどの市民が水道の供給を受けている状況である。

(2) 1人1日平均有収水量(ℓ/人/日)

荒尾市		類団平均
30年度	29年度	29年度
274	272	303

《算式》 平均有収水量＝1日平均有収水量÷給水人口

《説明》 給水人口1人1日当たりの水の使用量を表すもの。

《分析結果》 1人1日当たりの有収水量は274ℓである。前年度より2ポイント増加したが、類似団体平均は下回っている。

節水型社会への移行、節水意識の向上及び大口使用者の使用抑制が要因と考えられる。

(3) 有形固定資産減価償却率(%)

荒尾市		類団平均
30年度	29年度	29年度
42.4	41.1	45.3

《算式》 有形固定資産減価償却率＝有形固定資産減価償却累計額÷償却対象資産の帳簿原価×100

《説明》 資産の減価償却済の割合を示すもので、減価償却の進み具合や資産の経過年数を知ることができ、施設更新、修繕等の必要性を把握し、施設管理の一層効果的な運用を図るための判断材料として活用できる。

《分析結果》 類似団体平均を下回っているが、近年比率は上昇傾向にある。施設整備計画の策定等を実施し、施設の更新計画を立てる必要がある。

2 施設の効率性

水道事業は施設型の事業であり、適切な投資が行われているか否かが経営を左右することになる。投資が適切であるか否かは、施設の効率性を分析することにより判断することができる。

(1) 有収率(%)

荒尾市		類団平均
30年度	29年度	29年度
88.6	88.0	87.8

《算式》 有収率＝年間総有収水量÷年間総配水量×100

《説明》 配水量に対して料金収入の対象となった水量の割合を示すもの。

《分析結果》 前年度から0.6ポイント増加し、類似団体平均を0.8ポイント上回っているものの、高い数字とは言えない。

100%を下回っている要因の多くは漏水であると考えられ、引き続き老朽管の更新や適性な維持管理による漏水防止対策を進めていく必要がある。

(2) 負荷率(%)

荒尾市		類団平均
30年度	29年度	29年度
91.3	91.4	84.9

《算式》 負荷率＝1日平均配水量÷1日最大配水量×100

《説明》 施設が年間を通して有効に利用されているかをみる指標。この比率が高いほど施設の効率性がよい。即ち100%に近いほど、施設が平均的に稼働していることを示す。

《分析結果》 前年度とほぼ変動はなく、類似団体平均を上回っており、施設は概ね効率的に利用されている。今後は人口減少により水需要の減少が予想されるため、水道施設の統廃合等を視野に入れた効率的な整備の検討が必要である。

(3) 施設利用率(%)

荒尾市		類団平均
30年度	29年度	29年度
69.3	70.2	58.1

《算式》 施設利用率＝1日平均配水量÷1日配水能力×100

配水能力(H29年度) 22,400

《説明》 施設の利用が有効かつ適切に行われているかをみる指標。この比率が高いことは、施設の規模が適正であり施設が効率よく稼働していることを示す。

《分析結果》 前年度から0.9ポイント減少しているものの、類似団体平均を上回っており、施設は概ね効率的、かつ有効に稼働しているといえる。今後は人口減少により水需要の減少が予想されるため、引き続き水道施設の統廃合等を視野に入れた効率的な整備の検討が必要である。

(4) 最大稼働率(%)

荒尾市		類団平均
30年度	29年度	29年度
76.0	76.9	68.5

《算式》 最大稼働率＝1日最大配水量÷1日配水能力×100

《説明》 施設の利用及び投資の適正化をみる指標。この比率が高いことは、一般に施設能力の設定が水需要に照らし適正になされていることを示す。

《分析結果》 前年度から0.9ポイント減少しているものの、類似団体平均を上回っており、概ね施設能力の設定が適正であると考えられる。今後は水道施設の稼働率が下がることが予想されるため引き続き留意が必要である。

(5) 配水管使用効率(m³/m)

荒尾市		類団平均
30年度	29年度	29年度
12.9	13.1	21.5

《算式》 配水管使用効率＝年間総配水量÷導送配水管延長

導送配水管延長(H29年度) 439,430m

《説明》 導・送・配水管の布設延長に対する年間配水量の割合をみる指標で、給水区域の人口密度によって影響を受け、この数値が高いことは一般的に給水人口密度が高いと考えられる。

《分析結果》 前年度から0.2ポイント減少し、類似団体平均も下回っている。しかし、配水管使用効率は、人家等の密集度が高い大都市ほど高い傾向があり、集中よりも分散型住居地になる荒尾市の地域性を考慮すると、適正な数値だと考えられる。

(6) 固定資産使用効率(m³/万円)

荒尾市		類団平均
30年度	29年度	29年度
6.7	6.8	7.0

《算式》 固定資産使用効率＝年間総配水量÷有形固定資産

《説明》 有形固定資産に対する年間配水量の割合を見る指標で、一般的にこの数値が高いことは施設が効率的に使用されていることを示す。

《分析結果》 近年減少傾向にあり、類似団体平均よりも僅かながら下回っている。地理的条件によるものと考えられるが、今後、人口減少等により配水量の減少が予想され、施設の使用効率が低くなることも考えられるため、引き続き適正な施設規模を検討する必要がある。

3 経営の効率性

(1) 総収支比率(%)

荒尾市		類団平均
30年度	29年度	29年度
111.4	112.4	114.5

《算式》 総収支比率＝総収益÷総費用×100

《説明》 損益収支の均衡度を収益対費用の関係で表した指標で、100%を超え、かつ高いほど経営成績は良好といえる

《分析結果》 費用の増加により、前年度から1ポイント減少している。指標は100%を超えているが、給水収益だけでは費用を賄えない状況になっている。今後は人口減少により給水収益の低下が予想されるため、経費削減だけでなく、料金改定等の検討も必要である。

(2) 経常収支比率(%)

荒尾市		類団平均
30年度	29年度	29年度
111.4	112.4	114.6

《算式》 経常収支率 = (営業収益+営業外収益) ÷ (営業費用+営業外費用) × 100

《説明》 特別損益を除く経常的な収支を示した指標であり、100%を超えて、かつ高いほど経営成績は良好といえる。

《分析結果》 総収支比率と同様、費用の増加により前年度から1ポイント減少している。指数は100%を超えているが、施設、管路の老朽化に伴い年々修繕費が増加しているため、経費削減だけでなく料金改定等の検討も必要である。

(3) 繰入金比率(収益的収入)(%)

荒尾市		類団平均
30年度	29年度	29年度
4.8	5.0	1.1

《算式》 繰入金比率 = 他会計繰入金合計(収益) ÷ 収益的収入 × 100

《説明》 一般会計からの繰入金依存度をみるもので、規模の小さい事業体ほど高い傾向を示す。

《分析結果》 類似団体平均を上回っているが、閉山炭鉱利子償還相当分及び基準内繰入によるもので、財源の有効活用が図られている。

(4) 給水収益に対する企業債利息の割合(%)

荒尾市		類団平均
30年度	29年度	29年度
9.8	10.3	6.4

《算式》 給水収益に対する企業債利息の割合 = 企業債利息 ÷ 給水収益 × 100

《説明》 企業債利息を給水収益でどの程度賅っているかを示した指標である。水道事業は、施設型産業であり、設備投資の財源として企業債の依存度が高くなるので、減価償却費と同様に資本費の高騰に留意は必要である。

《分析結果》 年々減少しているが、類似団体平均より高くなっている。今後も老朽化した施設、管路を計画的に更新していく必要があるため、企業債の借入に頼らざるを得ない状況である。企業債利息の返済にあたり、料金改定等の検討が必要である。

(5) 給水収益に対する減価償却費の割合(%)

荒尾市		類団平均
30年度	29年度	29年度
50.9	49.7	45.4

《算式》 給水収益に対する減価償却費の割合 = 減価償却費 ÷ 給水収益 × 100

《説明》 減価償却費を給水収益でどの程度賅っているかを示した指標である。

《分析結果》 前年度から1.2ポイント増加し、類似団体平均も上回っている。今後も老朽管更新工事などの投資が増え、給水収益の減少も予想されるため料金改定等の検討が必要である。

(6) 供給単価(円/㎡)

荒尾市		類団平均
30年度	29年度	29年度
148.22	147.32	136.42

《算式》 供給単価＝給水収益÷年間総有収水量

《説明》 有収水量1㎡当たりの給水収益(売価)を示す。

《分析結果》 水1㎡当たりの売価が類似団体平均より高くなっているが、給水原価、料金回収率とあわせてみると、料金水準は高くない状況である。

(7) 給水原価(円/㎡)

荒尾市		類団平均
30年度	29年度	29年度
145.25	141.50	127.88

《算式》 給水原価＝{経常費用-(受託工事費+材料及び不用品売却原価)-長期前受金戻入}÷年間総有収水量

《説明》 有収水量1㎡当たりの給水に要する費用

《分析結果》 前年度より3円75銭上がり、類似団体平均より高い。今後は有収水量の減少が見込まれることから、適切な料金水準を維持するため、計画的に老朽管更新工事を実施し、修繕費用等の削減に努める必要がある。

(8) 料金回収率(%)

荒尾市		類団平均
30年度	29年度	29年度
102.0	104.1	106.7

《算式》 料金回収率＝供給単価÷給水原価×100

《説明》 供給単価と給水原価の関係を見るもので、この料金回収率が100%を割り込むことは、給水に要する費用を水道料で賄うことが難しくなっていることを意味する。

《分析結果》 年々料金回収率が低下している。指数は100%を超えているが、適正な回収率を維持するため料金改定等の検討が必要である。

4 財務の状況

(1) 流動比率(%)

荒尾市		類団平均
30年度	29年度	29年度
198.6	197.7	442.3

《算式》 流動比率＝流動資産÷流動負債×100

《説明》 短期債務に対する支払能力をみるもので、100%以上が望ましい。

《分析結果》 前年度と概ね同等の結果である。類似団体平均よりも下回っているが、100%を上回っており、短期債務に対する支払能力がある結果を表している。今後は企業債の借入が増える見込みのため引き続き留意が必要である。

(2) 当座比率(酸性試験比率ともいう)(%)

荒尾市		類団平均
30年度	29年度	29年度
197.8	196.7	419.7

《算式》 当座比率 = {現金預金 + (未収金 - 貸倒引当金)} ÷ 流動負債 × 100

《説明》 支払義務として流動負債に対する支払手段としての当座比率(流動資産のうち、現金・預金、換金性の高い未収金等)の割合を示すもので、短期債務に対する支払能力をみる指標。この指標で支払能力をみる場合は、単に数字の大小のみならず、当座資産の大小か流動負債の大小かを確認することが大切である。

《分析結果》 類似団体平均よりも下回っているが、100%は超えているため当面の支払能力には全く問題は無い。流動比率の結果と同様、企業債の借入が増える見込みのため留意が必要である。

(3) 自己資本構成比率(%)

荒尾市		類団平均
30年度	29年度	29年度
61.2	60.9	75.0

《算式》 自己資本構成比率 = (資本金 + 剰余金 + 繰延収益) ÷ 負債資本合計 × 100

《説明》 総資本に占める自己資本の割合を示す指標である。水道事業は施設の建設費の大部分を企業債によって調達していることから、自己資本構成比率は低いものにならざるを得ないが、事業の安定化を図るためには自己資本の造成が必要である。また、自己資本は、負債とは異なり原則として返済する必要がない資本であり、その意味で資本コストはかからず、自己資本によって建設投資を行うほうが資本費を抑える結果となる。なお、自己資本のうち剰余金等の内部留保の構成率が高いほど資本構成の安全性が高いので、自己資本の構成の内容まで留意する必要がある。

《分析結果》 類団体平均を下回っているが、望ましいといわれる50%を上回っており、自立性が高く安定した財政状態である。今後も引き続き、利益剰余金を原資とした資本造成に努める必要がある。

(4) 固定資産対長期資本比率(%)

荒尾市		類団平均
30年度	29年度	29年度
95.5	96.0	88.9

《算式》 固定資産対長期資本比率 = 固定資産 ÷ (固定負債 + 繰延収益 + 資本金 + 剰余金) × 100

《説明》 固定資産がどの程度、自己資本などの長期資本によって調達されているかをみる指標で、常に100%以下で、かつ低いことが望ましい。100%を上回っている場合には、固定資産の一部が一時借入金等の流動負債によって調達されていることを示し、不良債務発生の原因となる。

《分析結果》 昨年度に比べ、0.5ポイント減少し、95.5%と100%以下で事業の安全性は確保されているが、若干高い傾向にあり類似団体平均も上回っている。自己資本での固定資産調達が若干低いということが考えられるため、今後の推移に注意を払う必要がある。